

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372800740		
法人名	医療法人 潤幸会		
事業所名	ひまわり		
所在地	熊本県上益城郡山都町下市59番地		
自己評価作成日	平成23年10月20日	評価結果市町村受理日	平成23年12月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本三丁目13-12-205号		
訪問調査日	平成23年11月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

街中で地域に出かけやすい環境にあり、地域の方との関わりを大切にしている。地域の行事は毎回入居者の方の楽しみでもある。有事の際、協力体制を強くするために、訓練時の参加もしてもらっている。毎日が安心、安全で家庭的に過ごせるように心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは静かな山間の町にあり、退去後も引き続きホームを訪れおやつの差し入れをされる家族や、ボランティアで植木の剪定をする方等人々の厚情に支えられながら運営を展開している。入居後数年が経過した方の新たな情報収集に「ひとときシート」を活用し個々の身心の状態や好み、くせ等、細部に焦点をあてる事でより入居者の思いに近いプラン作成に繋がっている。運営推進会議の更なる充実を目指し、管理者は案内状を一人一人に手渡し参加者との友好関係を構築し、意見の出しやすい雰囲気作りにも努めている。出された意見や提案にはいち早く取り組み、ランチミーティングの開催は参加者の好評を得ている。包括センター主催による「認知症家族の会」の発起人でもある法人看護部長を中心に町の認知症介護に深く寄与しており地域密着型事業所としての今後の活躍が期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年に1回の院内研修で理念を勉強し、再認識し、実践できるよう努めている。常に地域に根ざしたグループホームというものを考え実践している。	地域密着型事業所としての理念をかかげ法人内の研修や毎月の会議の中で話し合い、更に理念を具現化した年目標を立て職員の意識向上を図っている。年度初めの運営推進会議で参加者に年目標を紹介し、ホームの姿勢や方向性を啓発している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進委員会時委員との交流や、施設周辺の散歩、地域で開催される「健康講座」参加、夜市 祭りの見学等 地域から孤立しないようにしている。	地域に古くから伝わる150年もの歴史をもつ秋の大祭は町をあげての一大行事であり入居者も毎年楽しみにされている。通りに面したギャラリーを地域の人々の休憩所として開放し交流の場となっている。日頃より玄関脇や通りにベンチを設置し、近隣の人々や学生が気兼ねなく活用している。地元中、高校生の福祉体験の受け入れ、踊りやマジック等の有志による訪問、退居された家族が差し入れを持って訪問されたり、植木剪定のボランティア等地域の人々と日常的に交流している。公民館での生きがい教室や地元商店での買物等、入居者が地域へ出る機会を支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会において、「認知症家族の会」の広報(ぽ〜れぽ〜れ)を配布したり、認知症ミニ勉強会を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進委員会において、2か月分のみまわりでの行事、研修内容 入居者の入所退所状態等作表して発表、交付している。事故報告も行いご意見を伺っている。	行政担当者、民生委員、区長、シルバーヘルパー、福祉員等の推進会議参加者へ管理者は自ら自転車以案内状を届け、関係構築に努めている。又全家族へ声かけし参加を呼びかけている。意見交換会では今後、防災訓練や認知症の勉強会に是非呼んで欲しいとの参加者からの意見や、食事会を兼ねたランチミーティングの提案が出され1回目が実現している。	推進会議参加者から上がった、防災訓練や認知症の勉強会への参加協力を是非依頼し、合わせて参加のなかった家族や外来者に向け玄関に議事録を開示し共有する事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	本年3月より地域包括支援センターが主体となり当町で認知症の人を介護する家族支援のため「山都町家族会」が発足し毎月開催されている。他事業者の方と連絡が密になってきている。	推進会議への行政の参加や町の介護作成担当者の研修会への参加、認定調査時の立ち会い等、行政関係者との連携を図りながらホーム運営に生かしている。管理者や法人看護部長による老人会での認知症の啓発活動や系列施設での介護教室への参与、等を支援し行政との協力体制を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営規定の中の「身体的拘束禁止」を職員全員が写し記録し身体的拘束をしないケアの必要性を実感して日頃ケアしている。玄関の施錠は日中は行わずサービスを提供している。	法人の「身体的拘束禁止」の項目を全職員が常に心に留め、拘束のないケアに取り組んでいる。今年度始めに接遇委員会を立ち上げ、管理者の指導のもとスピーチロックについても職員の意識に変化が表れてきている。玄関や裏口など施錠のない支援に取り組み入居者が職員と一緒に自由に出入りされる姿が確認された	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会にて虐待について学び、虐待をしないケアに努めている。日頃のケアの中で「スピーチロック」がないように注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会において地域包括支援センターから社会福祉士から来ていただき「権利擁護」について学んだ。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の相談時事前に施設見学をしてもらっている。契約時は運営規定を十分説明し納得を頂き了承サインしていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置を行っている。また面会時来訪時意見を伺っている。希望があれば毎月のカンファレンスにて取り上げて改善を図っている。又運営推進委員会時報告している。	意見箱の設置や家族の来訪時に意見や要望を確認している。入居者からは日常の関わりの中で聞き入れ、「甘いものば食べたい」との言葉に、午後のおやつに饅頭作りを行ったり、買い物に出かけるなどできる限り希望に応えている。	家族の意見や要望に対して改善された項目については、運営推進会議などで報告する事でホームの姿勢が周知される事と思われる。又、苦情・相談窓口として公的機関の説明も望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営推進委員会の中で要望を出し、必要時は反映されている。	管理者は定期的な会議や日常の勤務の中で職員の意見や提案を受け入れている。出された意見は法人看護部長と集約し、代表者に報告を行い改善や運営に反映させている。この一年入居者のADL低下に伴い浴室の手すり増設や、物品の購入などが行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	寝たきりだった入居者の方が、起床時間が長くなり自身で食事をしたりとADLがアップされてきて、職員同士で評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院外 院内研修へ可能な限り参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会などに参加し、他の事業所と情報交換している。また本年度は認知症家族の会発足があり参加して他の事業者の方とも交流をつくる機会ができていて、ケアの向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サマリーからの情報や、入居後利用者との会話で不安な面等尋ねるようにしている。又スタッフと気兼ねなくお話をできるように環境づくり信頼関係に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の施設見学時、または入居時等笑顔で接し話しやすい雰囲気づくりに努めている。訪問時等「要望はありますか？」と尋ねるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談があったときは、施設見学してもらい、短時間の利用や、お試し入居を行っている。また本人や家族の要望をしっかりとあくし施設での生活が要望に限りなく近いものであるか確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の一人ひとりのできること できないことを把握し、雑巾縫いや食器拭き、野菜の管理等その方の得意なことを行って頂き会話を楽しんでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	委員会の出席や行事の参加に必ず電話でお誘いをしている。入居者の介護者が高齢となっておられ、施設へ来られることが難しくなっている。その必ず出席して下さる方が一人おられて心強く思っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域での祭りに参加したり、時々自宅へ外出外泊できている。散歩時には友人に出会い、会話が盛り上がり関係継続ができています。	地域の祭りや健康教室への参加など知人との再会や交流できる機会を支援している。家族による馴染みの美容室利用や、親類の会への参加を楽しみにされる方もおられる。入居者にとって一番大切な家族が訪問しやすい雰囲気作りを行い、笑顔で迎え入れ居室での談笑中は入室を控えゆっくり話ができるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人で居室にいる人にはロビーに出て皆様とお話されるように声掛けしている。また車椅子の人、お話があまりできない方へのお世話をする方がおられ、良い人間関係が利用者の中でできている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ショートステイ退所の家族の方へはよくお会いする機会があり、近況等を尋ねている。併設病院への転院入院の方へは機会をつくり面会に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に一人ひとりの表情、行動を見て、可能であれば、本人に聞きながら、また訴えの困難な方は日ごろの状態を見ながら、本人の意向に沿えるように努力している。	日頃より寄り添いのケアに努め、表情やしぐさ、会話の中から本人の思いをくみ取っている。困難な場合は職員が個々に応じた語りかけや支援をする中で意向を推察したり、家族からの情報を得ながら思いに沿えるように努めている。管理者は信頼関係を築く事が一番大切であるとし、今後も職員と入居者がゆっくりと関われる時間を大切にしたいと語っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に生活歴を尋ねて情報を把握している。家事を一緒にする時、テレビを一緒に見る時色々な場面で昔を回想しながら、生活歴や馴染みの向かいの暮らし方を引き出し情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のケアを介護記録に記録して情報を把握して職員間の情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランは本人や家族の要望やケアカンファレンスを行い立案している。実践後は本人や家族から聞き取りや介護記録、カンファレンスで情報収集しモニタリング 次回のケアプランに反映させている。	本人、家族の思いを反映し担当職員からあがった声をプランへ繋げている。毎月のモニタリングで評価し個々の支援経過に変更内容を赤字で表記し、全職員で共有している。プラン作成後は、家族の訪問時に内容をわかり易く説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの変更は毎月のケアカンファレンスや、また日頃スタッフ同士の話し合いを行い、申し送り簿やカルテに随時変化したことを記録してわかるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	タイムスケジュールに拘らずに、利用者の要望に応じて柔軟に変更し対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町の夜市に出かけ、知り合いと偶然い出会ったり、日頃食べる機会がない串焼きやお好み焼きなどを購入することができた。太鼓の出し物など楽しく見学できていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を確認している。緊急時には直ぐに併設病院へ受診することを家族に同意を得ている。又他科受診の際家族の付き添いができない場合は職員が付き添うことを伝えている。	入居時にこれまでのかかりつけ医を支援することを伝え確認を行っている。現在全員が母体医療機関をかかりつけ医とし、ホームで緊急時や定期受診を支援している。同法人施設に設置された車イス対応の体重測定器の使用やスムーズな受診は入居者の負担軽減にも繋がっている。専門医療機関については家族対応としているがホームでも柔軟に対応している。来訪時には健康状態や残薬状況(目薬)を伝えるなど家族と情報を共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルサイン異常時、体調不良時は看護師に伝えている。看護師が再度チェックして必要と判断した場合は直ぐに医師に報告し受診できるように体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された祭、定期的にお見舞いに行き、現在の症の状を経過を知り、施設のソーシャルワーカーと今後を相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に入った方は、家族、主治医、スタッフと話し合い、方向を決めケアしている。家族の意見を重視して方針を決めている。	入居時に重度化した場合や終末期についての意向を確認している。最後までホームを希望される家族も多く、重度化した時点で関係者と話し合い、家族の思いを大切に支援を行っている。又、終末期支援についての外部研修参加者の復講により共有し、入居者一人ひとりのこれまでを大切に支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会で学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設施設合同の防災訓練や運営推進委員会で話し合いや、訓練の参加や実際の連絡体制に地域の方に入ってもらい協力体制をとっている。	総合訓練を含む法人との合同訓練やホーム単独の訓練を実施している。勤務状態によって避難誘導担当者を決定したり、重篤な方がいた場合は、職員がその方になり替わり訓練に参加するなど、全職員が有事の場合落ち着いて行動できるような訓練を行っている。地震や備蓄の内容についての勉強会や自主点検表の中で日々の最終火元確認を行っている。地震や近日に夜間想定訓練も予定されている。	今後は地域の参加・協力による訓練を予定であり、推進会議の中での提案やアドバイス等により実現が期待される。又、地震についての勉強会が行われており今後は火災以外の訓練の実施が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の重度の方でも、羞恥心は強くある。排泄ケア時はプライバシーが保てるようにドアを必ず閉めることや、プライバシーを損ねるような声掛けをしないように努めている。	管理者はその方の生きた人生を大切に、尊敬の念を持って会話や支援を行う事を、日頃より職員や実習生にも指導している。洗濯物についてもプライバシーや尊厳に配慮した場所での乾燥や日光干しを行い、入室時も必ずノックや了解を得る事を徹底している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に声掛けして、外出 外食の希望を聞くように心かけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	いつでも必要であれば日常業務は変更し、常に自分の家であればどうするのかなど、考えながら過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	提起的に訪問美容をしてもらっている。馴染みの美容院がある方はそちらへ行かされている。併設施設で行われるアロマ教室に参加し、化粧品をしている。化粧品を一緒に買いに行く等の支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食の準備、後片付けはできる方に行ってもらっている。出前 外食も行い楽しんでもらっている。お誕生会の饅頭つくりやきゅうりの佃煮作り等一緒に楽しんで作ることができた。	毎食のご飯・朝食の汁物をホームで、副食等は母体で調理している。入居者と一緒に管理するホーム菜園で収穫した野菜は、漬物にしたり献立の一品となり食卓を彩っている。手作り弁当を持っての花見やラーメンの出前、ファミリーレストランでの食事、おやつ作りなど好みや希望に応じ楽しい食事支援に繋がっている。又、代替え食やキザミ・ミキサー食、治療食など個々の状態に応じ支援している。	職員も入居者と一緒に同じ食事を摂っており、会話の様子から日常の信頼関係を感じ取れる。今後はより一人ひとりのその時の思いに応える為に、入居者の中に職員が入るような配置についても検討いただきたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態、食事摂取状況に応じて、食物の形状や量を栄養士と相談しながら支援している。一人ひとりにあったものとしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に義歯の洗浄介助、可能な方は自身での歯磨きができています。又1日1回は口腔体操を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方に合った排泄パターンを把握して、トイレ誘導 介助 オムツ時間表を作成して介助ケアしている。また時間にとらわれずに必要時介助している。	個々に応じた排泄パターンを把握し、おむつ交換表への記入や職員間での共有により全職員が同じ支援に努め自立やカテキンの効力を活かした排泄用品(お茶の力)の使用等気持ちの良い排泄支援に繋げている。夜間も個々に応じて支援し、使用したポータブルは必ず、使用されない事を確認してから洗浄・消毒し、天気の良い日は日光干しを行い清潔に使用できるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前中リハビリ体操を行い体を動かしてもらっている。水分補給に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	定期的に入浴日が決まっている。希望があれば希望に添うようにしている。入浴ができない人には清拭 足浴 着替えを行っている。	入居者のADLの低下に伴い、必要に応じた手すりの設置など改修を行い、基本的には週2回の入浴としているがあるが希望や夏場のシャワー浴など状況に応じ支援している。拒否の方へも職員とのコミュニケーションや話術により無理なく支援し、テレビを見ながら毎日足浴を行われる方など個々に合わせ対応している。シャンプーやリンスのボトルを使用しやすいものに移し替えたり、ドライブを兼ねた温泉施設の利用など楽しい入浴支援に繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の方の起床 就寝にあわせて起きてもらったり休んでもらったりしている。その方の生活リズムを尊重している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬や飲み忘れを防ぐために毎回スタッフ2人で確認して服薬介助している。内服処方時の説明書を必ず読み内容を把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の能力に応じて、裁縫や洗濯物のたたみ等行ってもらっている。テレビの番組もその方の好みに応じて番組を決めている。(野球相撲等)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ADLや身体的精神的な状況によって支援している。希望を聞いてのバスハイクや、日常の買い物、外泊などを支援している。	天気の良い日は草花を摘んだり、地元の方々と交流しながらホーム近隣を30分程の時間をかけ散歩している。定期的に地域の健康教室等に参加したり、家族の協力による帰省や外泊、親類の集まり(いとこ会への参加)を入居者は楽しみにされている。ホームは町中にあり雨天や寒さなど外出が困難な場合も道に面した会議室を兼ねたギャラリーから車や人々の往来を眺めながらお茶を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金のノートをつくり、施設で管理している方と自分で管理している方がいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の依頼があったときに支援したり、利用者プレゼントが送ってきた時に、お礼のお手紙のお手伝いの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を生けてもらったり、飾りつけをしている。季節に応じたタペストリーを飾り季節感を味わってもらっている。	明かりとりのあるリビングルームは、テーブルやソファが入居者の状態に応じて配置を決定している。オープンな台所からの匂いや入居者と職員の笑い声が響く温かい家庭的な環境である。職員手作りの壁掛けや手洗い場のアクリルたわし、花々の持ち寄りなど居心地良い空間となるよう全職員で取り組んでいる。	トイレや洗面所等の備品の設置場所の検討を行うことで、見落としがちな環境整備への気付きが生まれてくると思われる。又、職員の特技がホーム内に活かされてされおり今後も継続した取り組みに期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子を置いたり、自室でゆっくりお話をしたり出来るようしている。またフロアのテーブルでゆっくりお話をできている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各自それぞれ花瓶、時計、ぬいぐるみ等をおいている。自宅からの筆筒等も持参している。入居時に馴染みのものを持って来て貰う様に伝えている。	家族の協力によって持ち込まれたタンスやイス、時計・家族の写真・花瓶が入居者の落ち着く場所に置かれている。生花を好まれる男性入居者に対して、安らぎの空間となるよう花を絶やさないように配慮したり、小まめな換気や日々の掃除により居心地の良い居室作りを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	決まった位置での食事を行い、安心して時間を過ごしてもらっている。車椅子等の備品の整備を定期的に行っている。		